

カリキュラム・カリキュラム・カリキュラム

ー日本カリキュラム学会で考えるー

開倫塾

塾長 林明夫

Q：カリキュラムとは何だと考えますか。

A：学校などの教育機関において編成する教育計画(教育課程)と、学校などの教育機関の学びで身に着くすべてを含めて「カリキュラム」というのだと私は考えます。

Q：具体的にはどういうことですか。

A：(1)例えば、学校であるならば、「学習指導要領」のすべての内容と、学校での教科外教育のすべてを含んだものが「カリキュラム」であると考えます。

(2)「カリキュラム」ということばの語源は、ラテン語の「currele 走る」で、学習者の学習を「走る」ことに見立てて「走路＝経歴・履歴」(Course of Study)のこととされるようです。大学などでは「履修課程・教科課程」などと訳されるようです。

(3)学習者一人ひとりのもの(例：Aさんのカリキュラム)もあれば、学校側の用意した学習者全員のもの(例：国語科カリキュラム)、さらには、ある地域・地方のもの(例：愛知県の知多(地方)カリキュラム)や国のもの(例：英国の国家カリキュラム)などがあり、その区別は次元やレベル、文脈に依存し、その中身も異なってくるといえるようです。

*以上、日本カリキュラム学会編「現代カリキュラム研究の動向と展望」教育出版 2019年5月30日刊の第1章「カリキュラムとは何か」(P2～3)、安彦忠彦先生執筆より引用させて頂きました。

Q：日本カリキュラム学会とは何ですか。

A：(1)小学校から大学までの教育機関、あるいは省庁から自治体までの行政機関、教育産業等さまざまな「現場」に身を置きながら、カリキュラムの研究と実践にかかわっている会員の学会です。

(2)大会やセミナー、研究集会等で異質な考え方との出会いを演出し、多様性のもたらすダイナミズムによって学会の議論をより活性化、(カリキュラムについて)対話と出会いの場を創り出す学会です。

(3)1990年12月15日に設立され、来る2020年に設立30周年を迎えます。

*以上、前掲書「まえがき」松下佳代先生執筆より引用。

Q：カリキュラムについては、どのようなことが議論になっているのでしょうか。

A：ちなみに、先ほど御紹介した30周年記念事業として刊行された日本カリキュラム学会編の本

書で掲げられているテーマは、次の通りです。

- (1)カリキュラムとは何か
- (2)カリキュラムの歴史
- (3)カリキュラム編成の基本問題
- (4)学力とカリキュラム
- (5)教科とカリキュラム
- (6)道徳教育とカリキュラム
- (7)総合的な学習とカリキュラム
- (8)特別活動とカリキュラム
- (9)生徒指導・生活指導とカリキュラム
- (10)インクルーシブ教育とカリキュラム
- (11)幼児教育とカリキュラム
- (12)教育課程経営とカリキュラム・マネジメント
- (13)カリキュラムの計画・実施・評価
- (14)カリキュラムの今日的課題
- (15)わが国の学習指導要領の変遷
- (16)小学校・中学校・高校・大学・生涯教育におけるカリキュラム
- (17)授業研究とカリキュラム
- (18)学校を基礎としたカリキュラム開発
- (19)教育開発学校とカリキュラム開発
- (20)教科書とカリキュラム研究の課題
- (21)教師教育とカリキュラム
- (22)教育行政とカリキュラム
- (23)学習評価とカリキュラム
- (24)海外のカリキュラム実践からの示唆
 - ①韓国 ②中国・上海 ③シンガポール ④イギリス ⑤イタリア ⑥オランダ
 - ⑦ドイツ ⑧フランス ⑨フィンランド ⑩アメリカ ⑪オーストラリア
- (25)カリキュラム研究の方法
 - ①カリキュラムの哲学的研究 ②歴史的研究 ③教育方法学的研究 ④社会学的研究
 - ⑤教育工学的研究 ⑥心理学的研究 ⑦経営学的研究 ⑧行政学的研究 ⑨国際比較研究
 - ⑩批判的研究 ⑪カリキュラム研究の新しい動向(カリキュラム・ポリティクス概念と可能性)

Q：京都大学で年1回の大会が開かれたそうですね。

A：はい。2019年6月21日(金)と22日(土)に京都大学吉田キャンパスで、日本カリキュラム学会第30回大会が次のようなテーマで開催されました。

- (1)実践をつくるカリキュラム・マネジメント
- (2)考えることを考えるー哲学する教育の可能性
- (3)カリキュラムを表現するものとしての評価課題

- (4) 評価を活かしてカリキュラムをデザインする(公開シンポジウム)
 - (5) 教科横断型学習の具体像と可能性を検討する
 - (6) カリキュラムの「不易と流行」を語る—学習指導要領とカリキュラム研究—
 - (7) 変動する世界の大学入試—ヨーロッパを中心に—
 - (8) 教育における「エビデンス」を取り巻く論争点—ジョン・ハッティの研究をどう読むか—
- * この他、自由研究の発表と討議がありました。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

- A：(1) 教育内容をカリキュラムの観点からすべて見直し、2020年度の教育大改革を迎えるべきです。
- (2) 我が塾のコア・カリキュラムは何か、我が塾の学習指導で身に着く内容は何かを評価 (Can Do) の観点から見直し、カリキュラムとしてデザイン。
- (3) 学習指導以外で身に着くものは何かを塾風・校風の観点から見直し、カリキュラムとしてデザインする。カリキュラム研究を生かし、教育機関としてなすべき「カリキュラム開発」のテーマは山のようにあります。御一緒にがんばりましょう。

Q：最後に一言どうぞ。

- A：今月も、お読みになれば必ずお役に立つと考える本を何冊か御紹介いたします。
- (1) 1冊目は、レイ・ダリオ著、私の友人の斎藤聖美氏訳「PRINCIPLES、人生と仕事の原則」日本経済新聞出版社 2019年3月20日刊です。全米第5位のベストセラーに値する大著です。原著「PRINCIPLES: Life and Work」は平易で標準的な英語です。英語好きの中・高生なら、ほぼ辞書なしで読めます。是非、先生方も御挑戦を。難関校の高校入試や大学入試にも出そうな英文です。
- (2) 2冊目は、ジョージ・フリードマン著「ヨーロッパ炎上、新・100年予測」ハヤカワ文庫、早川書房 2017年4月25日刊です。同著のベストセラー「100年予測」「続・100年予測」と同様、読み始めると手から離れなくなります。本書で BREXIT の本質、ヨーロッパの苦悩と可能性、目指すものが、手に取るようにわかります。是非、御一読を。
- (3) 3冊目は、黛まどか著「引き算の美学、もの言わぬ国の文化力」毎日新聞社 2012年2月10日刊です。黛氏はフランスを起点に欧州に日本文化、俳句を紹介し続けている俳人です。正岡子規の一番弟子である高浜虚子著「俳句はかく解し、かく味わう」ワイド版岩波文庫、岩波書店 1991年6月26日刊や、小西甚一著「俳句の世界、発生から現代まで」講談社学術文庫、講談社 1995年1月10日刊とともにお読みになり、この夏は俳句を学び、俳句に親しむのも一興と考えます。
- (4) 夏休みの読書として、中学生・高校生・大学生の皆様と是非お読みいただきたいのは、内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマーク国の話」と同著「代表的日本人」とともに岩波文庫、岩波書店刊の2冊です。人は何のために生きるのかを説いたあと、デンマークと5人の代表的日本人の例を挙げてわかりやすく説いたのが、この2冊です。まだお読みになっていない先生方にもおすすめしたい「現代の古典」と確信します。是非、御一読ください。

2019年6月27日 (木) 林明夫記